声なき感染症を知る ◆26◆

海外渡航の前の予防接種

感染症の重要な対策

旅行の6週間前受診

県感染症情報センター

夏期休暇を利用して海外に渡航される人も多いと思います。「まだ6月なのに、もう予防接種の心配をしないといけないの？」と思う方、実は、決して早すぎません。

厚生労働省検疫所では、旅行前に医師の診察を受けることを推奨しており、病院の渡航外来やトラベルクリニックに相談する場合、「旅行の少なくとも6週間前」の受診を勧めています。また、予防接種の種類によっては、2～3回の接種が必要です。

▽海外渡航のための予防接種（ワクチン）の必要性

感染症によっては、その病原体に対して直接治療する手段がないものがあります。特に、命に関わるような感染症については、予防接種は最も重要な対処方法となります。

また、予防接種というと「自分自身を感染症から守るためのもの」という印象が強いと思いますが、そのことは、周囲の人への二次感染を防止することにもつながります。日本にはない病気を海外から持ち込まないために、必要な予防接種を受けましょう。

渡航先国によっては、入国する時に、予防接種証明書を要求される場合があります。

▽予防接種を考慮すべき感染症

現在、アフリカ大陸のアンゴラを中心に黄熱が流行しており、注意が必要です。ウイルスを持った蚊に刺されることで感染し、発熱、寒気、頭痛、筋肉痛、吐き気などの症状が出ます。そのまま回復する場合もありますが、重症化するといくつもの臓器からの出血や黄疸をおこす、致死率の高い病気です。

また、特別に流行しているわけではありませんが、狂犬病は日本の周辺国を含む世界のほとんどの地域で発生しています。発症後の有効な治療法はなく、致死率の高い疾患です。

そのほか、渡航先の衛生状態によっては、A型肝炎に感染するリスクがあります。ウイルスに感染すると、2～7週間の潜伏期間の後に、急な発熱、全身のだるさ、食欲不振、吐き気や嘔吐（おうと）が見られ、数日後には黄疸（おうだん）が現れます。

▽予防接種を含む感染症予防の準備

こうした感染症を防ぐには、予防接種を受ける以外に、渡航先で蚊に刺されない、犬などの動物にむやみに近付かない、加熱していない食品や生水は摂取しないなどの注意が必要です。

具体的に「どのワクチンを接種すべきか」は、渡航先国や、渡航先でどのような活動をするかによって異なります。厚生労働省検疫所のホームページ（http://www.forth.go.jp/index.html）に、渡航先ごとの情報が掲載されていますが、詳しくはかかりつけの医師か専門家に相談することをお勧めします。

▽専門医療機関の利用

特に持病など普段から健康管理を受けている病気をお持ちの場合、詳しく対処法を聞いておいた方がよいでしょう。

海外渡航に関する専門機関として、県内には二つの病院に渡航外来・トラベルクリニックがあります（別表参照）。

安全・安心な海外渡航のために、十分な事前準備をしておきましょう。

（県感染症情報センター）

＝第2木曜日掲載＝

黄熱に感染する危険のある国（厚生労働省検疫所ホームページより）

アフリカ地域	アンゴラ、ウガンダ、エチオピア、カメルーン、ガーナ、ガボン、ガンビア、ギニア、ギニアビサウ、ケニア、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、コートジボワール、シエラレオネ、スーダン、セネガル、赤道ギニア、中央アフリカ、チャド、トーゴ、ナイジェリア、ニジェール、ブルキナファソ、ブルンジ、ベナン、マリ、南スーダン、リベリア、モーリタニア
アメリカ地域	アルゼンチン、エクアドル、ガイアナ、コロンビア、スリナム、パナマ、フランス領ギアナ、ブラジル、ペルー、ベネズエラ、ボリビア、トリニダード・トバゴ（トリニダード島のみ）、パラグアイ

県内の海外渡航に関する専門医療機関

医療機関名・診療科名	所在地	電話番号
県立医科大学付属病院・海外渡航者外来	橿原市四条町840	0744(42)3051
奈良西部病院・トラベルクリニック	奈良市三碓町2143の1	0742(51)8700